

千葉市における自治会館の室構成と利用状況

日大生産工 (院) ○安藤 恭慎
日大生産工 広田 直行

1. はじめに

1.1 研究の背景と目的

千葉市の自治会館は、昭和 60 年には 262 施設あるが、平成 24 年になると 690 施設と 3 倍近く増加している。しかし、少子高齢化で自治会館の利用が減少して地域住民のコミュニティの希薄化が問題になっており、今後の自治会館が住民に対してどのような役割を担うか模索する必要がある。

本研究では千葉市の自治会館における室構成と利用状況を調査することで、自治会館の現状と役割に関する知見を得ることを目的とする。

2 研究の対象と調査方法

2.1 研究の対象

本研究では、千葉市に設置されている自治会館 690 施設の中から、多段抽出法⁽¹⁾を用いて無作為に抽出した 120 事例を対象とする。本稿では調査が終了している 61 事例⁽²⁾について報告する。

2.2 研究の方法

調査方法として、自治会館の現地調査と自治会長からのアンケート調査により、自治会館の室構成と利用実態を把握する。これにより、今後の自治会館の役割につながる要因について明らかにする。

2.3 アンケート調査内容

本稿では表 1 に示す 1. 管理方法、2. 室構成、3. 利用状況の 3 項目について自治会長に対しアンケート調査をおこなう。

3. 調査事例の分類

自治会館の施設形態を分類すると、①戸建、②団地内、③マンション室内に分類できる。調査が終了している 61 事例は①戸建が 39 事例、②団地内が 17 事例、③マンション室内が 5 事例に分類できる。

表 1 ヒアリング調査内容

ヒアリング項目	ヒアリング詳細
管理方法	土地・建物の所有者
	使用時の申請方法
	管理人の有無
室構成	所持する室名称
	自治会館の改修・転用・増築の有無
利用状況	利用時間・曜日
	利用する年齢層
	利用料金
	利用するサークル
	利用者からの要望 自治会館で行われているイベント

4. 自治会館の室構成

4.1 建設年と室数からみる傾向

建設年と自治会館の室数を比較したものが図 1 である。図 1 から建設年の標準偏差をみると、自治会館が 1977 年から 1999 年の間に設置していることがわかる。また、室数の平均、標準偏差をみると自治会館は 4 部屋型を中心として、2 部屋型～6 部屋型の 6 タイプを設置している。一方、2000 年以降は自治会館の設置数は、1977 年から 1999 年までの設置数と比較して減少している。

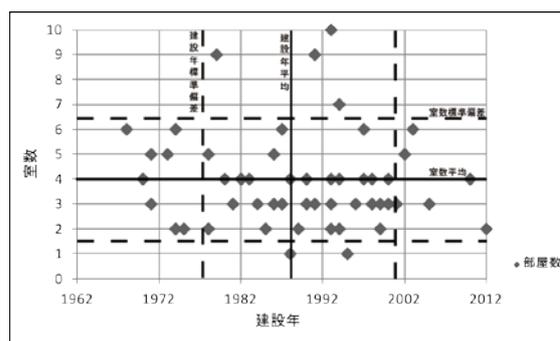


図 1. 建設年と室数

4.2 建設年と建築面積からみる傾向

建築面積と自治会館の室数を比較したものが図 2 である。建築面積の標準偏差をみると千葉市は 60 m²～210 m²規模の自治会館を設置している。同様に、室数の標準偏差をみると 2 室～6

室の諸室を所有している。このことから千葉市は、建築面積を 60 m²～210 m²、室数を 2 室～6 室所有する自治会館が多いことがわかる。

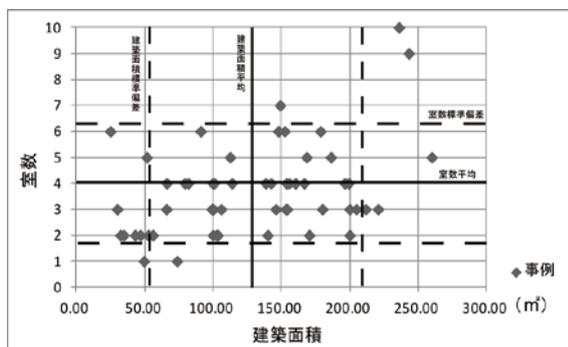


図 2. 室数と建築面積

4.3 自治会館の室分類

室名称と部屋の利用方法から、施設に設置されている部屋を分類すると①台所、②会議室、③和室、④ホール、⑤事務室、⑥ステージ、⑦管理人室、⑧その他の 8 種類に分類できる。図 3 は分類した室空間を事例数でまとめている。

①台所は 61 事例中 56 事例と設置している事例が最も多い。②会議室は 51 事例設置している。③和室は 41 事例に設置している。これらのことから自治会館は会議・サークル活動・イベントなどの団体が利用することを想定した室構成がされている。

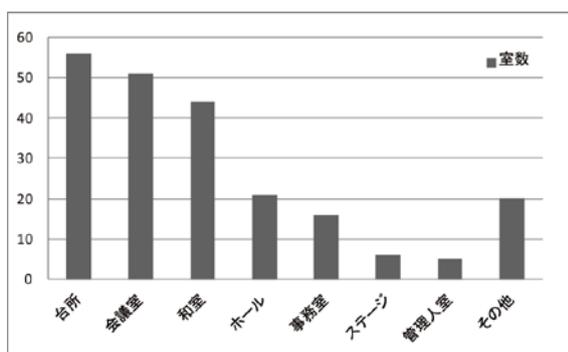


図 3. 自治会館の室分類

4.4 常駐する管理人の有無

図 4 は自治会館に管理人が常駐する有無を施設形態別に割合でまとめている。

戸建では管理人が常駐する事例は 1 割と低く、自治会館の管理は自治会長がおこなう。一方、団地は 5 割の事例が管理人を常駐しており、マンションでは全ての事例で管理人を常駐している。マンションでは管理委託会社から派遣された人が自治会館を管理している。団地では自治

会員から管理人を選出する事例、管理委託会社から派遣された人が自治会館に常駐して管理する事例にわかれている。

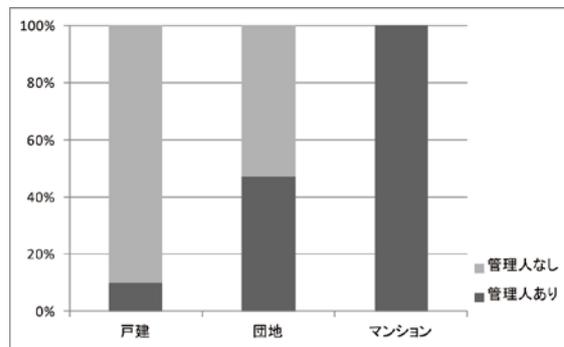


図 4. 常駐する管理人の有無

4.5 自治会館の利用料金

自治会館の利用者は①自治会員の利用者、②外部からの利用者の 2 種類に分類できる。図 5 は自治会館を利用する際に、分類された 2 種類の利用者に対する使用料金発生の有無を表している。図 5 をみると①自治会員が無料で利用できる事例が多い。これは自治会費を支払う代わりに、自治会館の利用料金を無料にしているためと考えられる。

②外部からの利用者に対しては有料とする事例が多い。また外部からの利用を禁止している事例もあり、マンションは調査した全ての事例で外部からの利用を禁止している。マンション形態の自治会館は設置当初から居住者の利用のみの方針を決めている事例、居住者と外部からの利用者間でトラブルが生じたことで利用を禁止した事例がある。

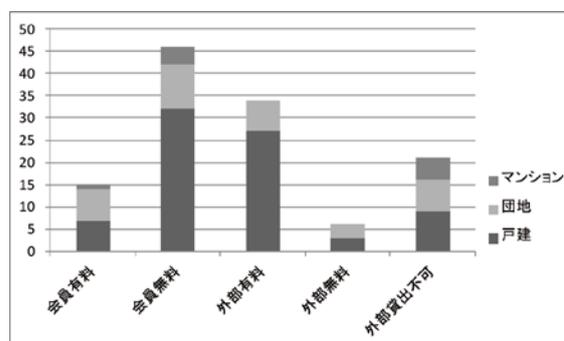


図 5. 施設の利用料金

4.6 自治会館の使用方法和開放の仕方

自治会館の貸出方法、自治会館の開放の仕方を施設形態別にまとめたものが表 2 である。

使用方法をみると、54 事例が①自治会長・

管理人に対して口頭申請であり多い傾向にある。一方の②書類提出は6事例と少なく、このことから多くの自治会館が口頭申請により貸出をしている。

次に、開放の仕方では②申請時のみ開放が58事例と多い傾向にあり、常時開放する事例は3事例と少ない。このことから自治会館を利用するには、自治会長・管理人に口頭申請を行い、自治会館を開放して使用する事例が多い傾向にある。

使用方法	口頭申請	書類提出	その他	常設開放	常時開放	申請時のみ
戸建	36	3	0	戸建	1	38
団地	14	2	1	団地	1	16
マンション	4	1	0	マンション	1	4
合計	54	6	1	合計	3	58

表2 自治会館の使用方法和開放の仕方

5. 自治会館の利用状況

5.1 自治会館の利用行為

自治会館での利用行為を分類すると①サークル、②会議、③個人（雑談、冠婚葬祭）④その他の4種類に分類できる。図6は自治会館での活動内容を表している。図6からサークルは61事例中41事例で活動している。同様に、会議も61事例中43事例で活動している。一方、個人の利用は61事例中7事例と活動が少ない。このことから現在の自治会館では個人同士での活動・利用は少なく、サークル、会議などの団体が利用する傾向にある。

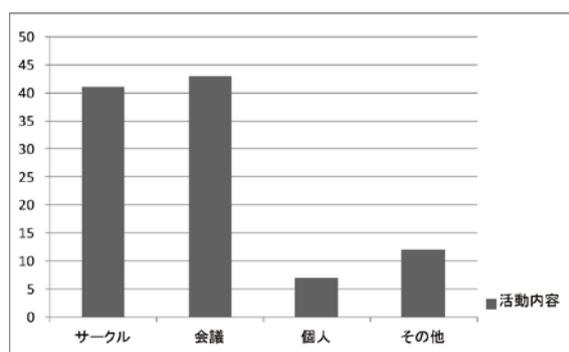


図6. 自治会館での利用行為

5.2 自治会館を利用する年齢層

図7は自治会館を利用する年齢層を表している。図7をみると60代以上の利用者が最も利用する傾向にある。一方、50代、40代、30代と年齢層が若くなる毎に、自治会館の利用が減少する傾向にあり、20代は最も自治会館を利用していないことがわかる。20代から50代の世代

で利用が少ないのは、時間がとれない、自治会館を利用する機会が無いと考えられる。10代は子供会や60代以上の利用者が開催する教室に参加するため、20代・30代よりも利用頻度が高くなる。

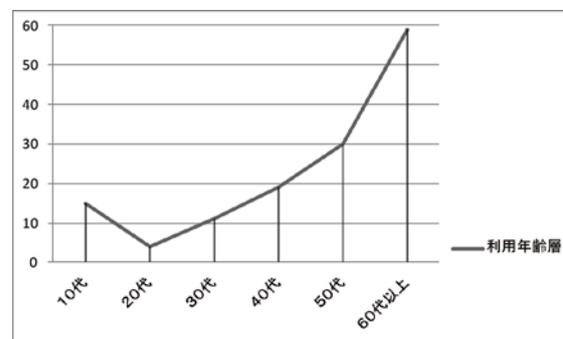


図7. 利用する年齢層

5.3 曜日からみる利用傾向

自治会館の利用は①サークル活動、②会議、③その他（イベント、個人利用）に分類できる。図8は自治会館の曜日毎の利用頻度を表している。①サークル活動は月曜日から金曜日の平日で利用が多い傾向にあるが、土曜日・日曜日の休日には利用が減少する傾向にある。

②会議は月曜日から金曜日の平日の間での利用ほとんどみられないが、土曜日・日曜日の休日に利用が増加する傾向にある。理由として休日は予定を調整しやすいため、会議が休日に集中すると考えられる。また会議が休日に集中するため、サークル活動が制限されて利用減少に繋がっている。

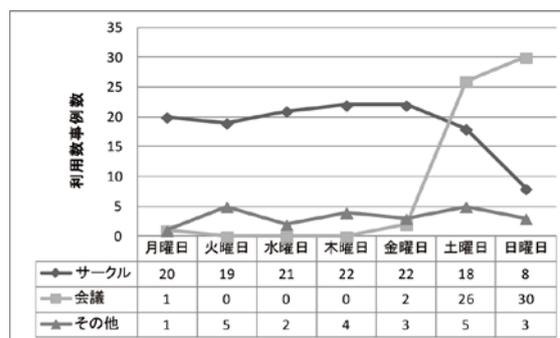


図8. 曜日毎の利用頻度

5.4 室空間の利用頻度

図9は利用頻度から、利用頻度が高い室空間と利用頻度が低い室空間を事例数で表している。4.3で分類した8種類の中で会議室、和室、ホールの3部屋を、利用頻度が高い室空間として

挙げている。一方、会議室、和室、ホールの利用頻度が低い事例数をみると、会議室は5事例、ホールは1事例と利用頻度が低い部屋として挙げる事例が少ないのに対して、和室は13事例と多く挙げている。このことから会議室、ホールは利用頻度が高い室空間であるが、和室は利用頻度の差が大きいと考える。

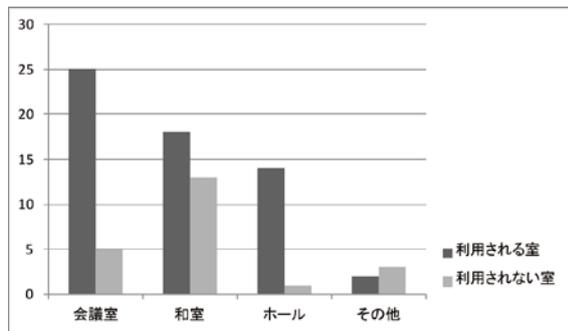


図9. 室空間の利用頻度

5.5 利用者からの要望

利用者からの自治会館に関する要望を分類すると①設備機器の導入、②娯楽機器の導入、③和室から洋室、④増築、⑤外部スペースの確保、⑥その他に分けられる。図10は分類した利用者からの要望数を施設形態毎に表している。

①はエアコン・暖房の導入、取り換えについて要望されており、施設に設置されている設備機器の老朽化しているためと考えられる。②娯楽機器の導入、③和室から洋室、④増築、⑤外部スペースの確保は、いずれも高齢者の事情に沿う要望がされており、このことから高齢者に合わせた施設の整備が必要である。

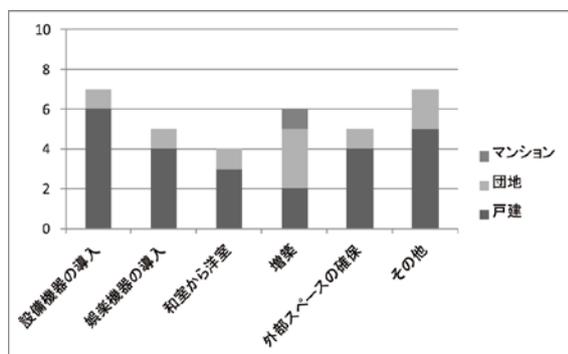


図10. 利用者からの要望

7. まとめ

自治会館の室構成、利用実態の分析から以下にまとめることができる。

1) 千葉市の自治会館は1977年から1999年に集

中して設置されており、室数は2部屋型～6部屋型の6タイプを設置している。

2) 千葉市は、建築面積が60㎡～210㎡の自治会館を多く所有している。

3) 2000年以降の自治会館設置数は減少傾向にある。

4) 自治会館を利用する際は、自治会長・管理人に口頭申請を行い、自治会館を開放して使用する傾向にある。

5) 台所、会議室、和室、ホール、事務室は自治会館の中で設置数が多い室空間である。

6) 戸建は管理人を駐在する事例が少なく、団地では委託会社から派遣された管理人、マンションではマンションの管理人が兼務して常駐している事例が多い。

7) 自治会員の利用は無料の傾向がある。一方、外部者に対しては有料、または利用させない傾向にある。

8) 自治会館を利用するのは60代以上の高齢者が多い。また個人利用は少なく、サークル、会議などの団体が利用する傾向にある。

9) サークル活動は月曜日から金曜日に行われるが、土曜日、日曜日の活動は減少する。一方、会議は月曜日から金曜日には行われず、土曜日、日曜日に増加する。

10) 会議室、ホールは利用頻度が高く、和室は利用頻度の差が大きい。

11) 利用者の要望から、娯楽機器の導入、和室から洋室への改装、増築、外部スペースの確保など、高齢者に合わせた施設の整備・充実が必要であるといえる。

【注釈】

注(1) 多段抽出法とは、対象事例母集団を幾つかのグループに分け、その中から対象事例を無作為に選択する方法。

注(2) 栗山瑛子/千葉市の自治会館における屋外スペースの現状と利用実態

【参考文献】

1) 由良富夫/町内自治会集会所の整備過程に関する研究 1985年 p. p. 66～124